
ある夏の夜のわんわんわん

久乃 銑泉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ある夏の夜のわんわんわん

【Nコード】

N7828L

【作者名】

久乃 銑泉

【あらすじ】

ある夏の夜の、ちょっとした怪談。……ほんとに、ちょっとだけ。ショートショートってやつです。

とある夏の日、時刻はちょうど丑三つ時。どこぞの家の寝室で、青年が1人のんびりしていた。特に何をするでもなく時間を過ごしていたのだが、気がつけばこんな時刻。明日が休日とはいえ、そろそろ寝た方がよいかもしれない。そうしてふと時計を見たとき、すぐ横の写真が目に入った。

「……ポチが死んで、もう1年か。早いなあ」

ポチというのは、この家で以前飼っていた雑種犬の名だ。今でも青年は自室の時計横に写真を置いている。12歳という年の割には元気なヤツだったのだが、急な暑さにやられたのかポックリと逝ってしまった。その時は青年も年甲斐無く泣いたものだ。

……プルルル……プルルル……

「……ん？ 誰だよ、こんな時間に電話かけてくる奴は」

にわかに自己主張を始める携帯電話。せっかく感傷に浸っていたというのに、何とも無粋な着信だ。懷より取り出した携帯を開き、誰からの着信かを確かめる青年。その目が驚きに丸くなる。

「えーと、発信者は……ポ、ポチ!？」

携帯画面、その中で発信者名の表示されるべき場所には、“ポチ”とだけ表示されていた。慌てて電話をとる青年。

「も、もしもし!？」

すると、一瞬の間の後……

「わんわん! わん、わわん、わんわんわおん!」

「ポチ!」

「わわわん、わおん、わんわんわん!!」

「え、えーと、ポチ……」

「わんわんわんわん、わおんわおんーん!!!」

「……………」

……声が聞けて、とても嬉しい。そう、嬉しいのだが……

「分かるかつ！」

「……わん、わおん？」

さすがに犬語は理解できない青年であった。

（後書き）

よく怪談とかであるネタですけど、犬やら猫やらがそう簡単に人語習得できんよなーと思ひまして。どーせなら生きてるうちに習得して欲し……いや、それはそれで怖いですが、主に本音とか。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7828/>

ある夏の夜のわんわんわん

2010年10月20日15時49分発行